

絹川正吉著「大学教育のエクセレンスとガバナンス 絹川学長の教学経営ハンドブック」

地域科学研究会、高等教育情報センター 2006年12月20日刊を読む

グローバル大学 基準11 図書館

- ・リベラルアーツでは図書館は極めて重要
- ・図書館施設(世界的水準のハイテク図書館)
- ・蔵書数、学生の貸し出し冊数
- ・大学の教育使命の達成の貢献

1. 最後は図書館です。リベラルアーツ教育では、図書館は中枢の機能を担います。図書館がただ蔵書収蔵の機能しか発揮できなければ、リベラルアーツ教育は死んでしまいます。図書館が機能しているか否かが、リベラルアーツ教育の成否の鍵であるといっても過言ではありません。繰り返しですが、リベラルアーツ教育は、自己学習が中心ですから、図書館なしには自己学習ができないわけです。図書館がどのくらい使えるかが、その大学の教育の質です。図書館を使っているかということです。普通は図書館を使っていないですね。
2. 地方の国立大学に行って驚いたのは、図書館の施設がきわめて貧弱なことです。アメリカの一流の大学であれば、図書館というのはホテルのロビー並みです。床には絨毯が敷いてある。ソファが置いてあって、そこで学生は自由に座って非常にゆったりした気分で本が読める。もちろんテーブル席もありますけれども。そういう空間が豊かに用意されていて、そして図書館を使わなければ単位が取れないような授業を教員がするのです。
3. 日本でも大学基準が単位制を取っており、1単位の授業というのは1時間のクラスワーク、プラス2時間のクラス外活動を要求しています。しかし、現実にはフィクションとなっておりま。つまり、本来はクラス外で2時間勉強するように課題を出すわけですから、図書館を使わざるを得ない仕組みです。図書館を使うように授業運営をしなければなりません。
4. しかし、ほとんどの大学は、1時間の講義のみで、それ以上は要求しない。これはグローバル・スタンダードから見ると詐欺といわれても弁解できません。図書館が使われていることは、教育の質の表現なのです。
5. そういうわけで、質ということは、日常性におけることです。当たり前のことをきちんとしていることが重要です。

[コメント]

リベラルアーツ教育は自己学習が中心だから図書館なしには自己学習ができない。図書館がどのくらい使えるかがその大学の教育の質である。図書館を使わなければ単位が取れないような授業を教員がすること。図書館が使われていることは教育の質の表現である。以上の絹川先生の御指摘はすべて正しいと私は考える。ならば、大学に進学する前に図書館の使い方を身につけさせることは、大事な初等教育、中等教育となる。今日からどんどんやってみたい。

- 2009年8月3日林明夫記 -